

令和2年度大川市総合教育会議 会議録

令和3年1月27日、大川市役所大会議室において、令和2年度大川市総合教育会議を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分
閉会 17時15分

2. 出席者

市長 倉重 良一
教育長 内藤 妙子
委員 谷川 朋昭
委員 一ノ瀬直子
委員 蔵本美保子
委員 今村 秀一

3. 事務局等の出席者

学校教育課長 馬淵 嘉臣
学校教育課主任教育指導主事 池上 和久
生涯学習課長 岡 辰磨
生涯学習課長補佐 岡 美詠子
学校教育課総務係 永島 潤一

4. オブザーバー

大川市ICT教育支援プロジェクト会議 推進委員長・副委員長 3名
福岡県立大川樟風高等学校 槻木 校長

5. 傍聴者

6名

6. 協議事項

- (1) コロナ禍における個別最適化を目指した教育について
- (2) 学校校種間連携について～郷土愛の育成と担い手づくりの観点から～

7. 議事

| | |
|-----------------|--|
| 1. 開会 2. 市長あいさつ | |
| 市長 | ただいまから令和2年度大川市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。 まず、本会議については、平成27年の法律改正に伴い、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置されたものであります。 今年度は、本当に大変な年度です。本市としては、新中学校の開校や国際医療 |

| | |
|--|--|
| | <p>福祉大学薬学部の開校、有明海沿岸道路の供用開始、子育て総合支援施設のオープンなど大きな環境の変化がある、新しい未来に向かってスタートの年としておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、学校の全国一斉休校があり、児童生徒にとってはストレスが大きく、教職員の皆様にとっては負担が大きい年になったのではないかと思います。</p> <p>会議の前に、昨年の総合教育会議での自分の発言を議事録で再確認しましたら、「今からの時代は、テクノロジーが我々大人が経験したことの無い速度で進化していくことにより、見たことの無いものや考えが、子ども達の前に次々現れてくる。そういった環境の中でも、自分を保っていられる人づくりをしていく必要がある」と申し上げていました。そして、今年はまさにそういう年になりました。国がGIGAスクール構想を推進している中で、本市においても、タブレット端末を1人1台整備済みであり、他の自治体においては、整備が完了していない学校もありますが、来年度4月には、全国で整備が完了する予定であります。</p> <p>また、小学校5、6年生においては、教科担任制が導入されることとなり、コロナ禍という大変な状況のなかで、教育行政においても変化に踏み出していこうという大きなうねりが出てきたと感じています。</p> <p>本市においても、子ども達のためにやれることをやり、何より我々大人が知らないことにも臆することなくチャレンジしていくことが必要かなと思っています。</p> <p>本日の会議においては、まず、ICT教育が中心になるかと思いますが、「コロナ禍における個別最適化を目指した教育について」、次に、大川市の特色ある教育の実現に向け、「小中高大連携について～郷土愛の育成と担い手づくりの観点から」の2点について協議を行ってまいります。</p> <p>委員の皆様には、活発で忌憚のないご意見を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。</p> |
| <p>3. 協議事項 (1) コロナ禍における個別最適化を目指した教育について</p> | |
| <p>市長</p> <p>教育長</p> | <p>まず教育長より説明をお願いします。</p> <p>コロナ禍における個別最適化を目指した教育ということで説明をいたします。まず、1月26日に出された国の中央教育審議会答申の資料である「令和の日本型学校教育」における学びのイメージについて説明いたします。</p> <p>令和の日本型学校教育の構築においては、すべての子ども達の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現がテーマとなっており、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という、相反するように見えるこの2つをどのようにしてバランスよく行っていくかということが重要となってきます。</p> <p>次に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の内容について説明をします。</p> <p>まず、個別最適な学びについては、「指導の個別化」と「学習の個別化」の2つに分けられており、「指導の個別化」とは、支援が必要な子どもに、より重点的な指導を行うなど、効果的な指導を実現することであり、特性や学習進度等に応じ、指導方法や教材等の柔軟な提供を行うことで、指導の個別化を図ることとなります。また、「学習の個別化」とは、子どもの興味関心に応じ、1人1人に応じた学習活動や学習課題の提供を行うこととなります。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>一方で、協働的な学びとは、多様な他者との協働を通して学びを進めることであり、その時に探求的な活動や体験的な活動が必要になってきます。集団のなかで、個が埋没してしまうことがないように、1人1人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせたり、より良い学びを生み出します。</p> <p>私は、個別最適化と同時に、協働的な学びのバランスが必要であると感じています。</p> <p>次に、本市での個別最適化に向けた取組としては、GIGAスクール構想により、タブレット端末の1人1台の整備については完了しましたが、今後は、こういった機器をどう活かして子どもたちの教育に結び付けていこうかという状況ですので、そういった活用面を協議していく場として、大川市ICT教育支援プロジェクト会議を立ち上げ、各学校の先生に委員になっていただき、活用の仕方を協議していただいています。</p> <p>実際にこの会議でどういったことを行っているかを、指導主事より説明をいたします。</p> |
| 指導主事 | <p>大川市ICT教育支援プロジェクト会議の概要についての説明いたします。</p> <p>まず、今までの学習では、対面授業と協働的な学習を並行して進めてきました。個別最適化した学びを充実させるためには、ICTの活用が欠かせないと考えています。そこで、対面指導とオンラインのどちらも活用したハイブリッドな学びを図っていきたいと考えています。</p> <p>そして、1人1人の子どもたちが課題意識を持ち、自分で方法を選び、それぞれの課題を解決していくことを目指しています。</p> <p>ICTの活用で得られるメリットとしては、映像や動画、資料などを提供することにより、学習意欲の向上が図られること。1人1人の考えが生かされること。自分なりの解決方法で表現できること。さらに、1人1人に応じた問題の提供が可能になることなどがあると考えています。</p> <p>このような個別化最適化された学びの実現を目的として大川市ICT教育推進プロジェクト会議を行っております。</p> <p>大川市ICT教育推進プロジェクト会議は、各学校の教師が1名ずつ推進委員になり、教科の指導に定評がある教師と機器の使用技能に優れた教師が、どのようにしてICT教育を進めていくかを考えています。この会議の目標としては、令和4年度には毎時間ICT機器を活用した授業ができることを目指しています。</p> |
| 市長 | <p>説明ありがとうございました。後ほど、現場でのICT機器の使い方などについて、実際に披露いただこうと思います。それでは、説明の内容に対しての思いやご意見などを委員の皆様からいただければと思います。まず谷川委員からよろしくお願いします。</p> |
| 委員 | <p>コロナ禍における個別最適化した学びについてということですが、本来であれば、数年後に各小中学校の子どもたちに1人1台ずつ端末ということで国は事業を進めていました。</p> <p>しかし、市長の挨拶にもあったように、新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度末から臨時休校に入っていたということもあり、国の方が急遽予算化を</p> |

したことで、本市でも各小中学校の子どもたち1人1台の端末が届いているという状態です。3～4年で進める予定であったことが、1年間のうちに進んでしまっていて、あっという間に流れが先に進んだなどということを実感しています。

I C T活用については、私自身このような機械を使うことが苦手で、今から使いこなすようになるには、かなり時間がかかると思いますが、子ども達はあっさりと身につけていき、子ども達の方が教師よりも先に身につけてしまうのではないかと考えています。

こうした機器をうまく利用できれば、コロナ禍においても、オンライン授業ができるようになり、授業の役に立つということは間違いないと思います。また、個々に応じた学習が今以上に展開できるようになることも期待できます。

しかし、一方で、使いこなせる子どもと苦手な子どもとで差が出てくる可能性があり、習熟度別で学習ができることにより、今まで理解できてなかったところが理解できるようになる子どもが多くなるとは思いますが、最終的には、先生と子どもの信頼関係の構築が今以上に大事になってくると思っています。

I C T教育が推進されていくことと同時に、先生と子どもの人間関係をしっかりと構築していくことで、子ども達に安心感などが生まれてくると思いますので、I C T教育と同時に人間関係を大事にすることを忘れてはいけないと思っています。

市長

ご発言ありがとうございました。次に、一ノ瀬委員からご発言をお願いします。

委員

I C T機器を使いこなすというのは、やはり、年配の世代においては、難しいところがあると思います。子ども達の親年代は、使いこなして始めているかと思いますが、それより上の祖父母年代になると、やはりI C T機器などに対して、マイナスなイメージを強く持っているというところがあって、そういったものには、極力触れさせないようにということがずっと言われていました。なので、まずは、親世代や祖父母世代のI C Tへの理解というものが必要になっていくかと思っています。これから先、ランドセルにタブレット端末などをに入れて通学をして、家でもそういった端末を使って勉強するようになるかと思いますが、その時に、親や祖父母がI C Tなどに対しての理解がしっかり持っていないと、ただ遊んでいるだけだと思われるのではないかと思います。そういった誤解がないように、各家庭での理解というものが必要になってくるのではないかと思います。

また、情報モラルの指導についてもとても重要であり、そういったことについても同時進行で教えていくべきであると考えます。

次に、個別化というところでの提案ですが、飛び級制度を取り入れてはどうでしょうか。外国における飛び級とは、その子の学年自体が上がることでありますが、教科だけの飛び級を取り入れてみてはどうかと思っています。教科によって個々の理解度の差が異なると思いますが、算数・数学などは子ども達の理解度に差がかなりあると思うので、現状としても、算数・数学は学年内で習熟度別にクラスを何個かに分けて授業しているとは思いますが、そのクラスのなかでもかなり差があると思うので、もっと先に進みたい子は、上の学年に入って授業を受けるとするのはできないのかなと思います。学年を超えて行くことに間

題があるということであれば、単元別で分けて授業をし、子どもは自分の勉強したい単元の授業を受けるというのはどうでしょうか。毎時間というわけにはいけないので、1ヶ月に1回などでのスパンで全ての学年の授業を算数・数学に揃えて、子どもは自分の希望でどの授業でも受けられるというようにすると、得意分野を更に引き上げることや苦手分野の克服ができるのではないのでしょうか。また、英語も同様に、単元別などで特定の曜日に全ての学年の授業を英語にしてはどうでしょうか。本市の特色ある授業ということでやってみてはどうかと思います。

市長

ご発言ありがとうございました。次に、蔵本委員の発言をお願いします。

委員

私は、効果的・効率的な学びのために、ICTを生かして欲しいと思っています。そのためには、大人側の体制作りの努力が大切だと思っています、まずは、様々なことをオンラインでやってみることが大事ではないでしょうか。練習として、オンラインではなくてもできることを、あえてオンラインで行ってみる場を作ってみる。そうすることで、失敗やうまくいかないことを経験してみるということが大事だと思います。例えば、今年は授業参観が、コロナ禍の影響で中止になったということですが、オンラインで学校と家をつないで、親は家からでも授業参観に参加できるようにするなどの取組は、今でもできることだと思うので、是非やってみてほしいと思います。

また、保護者との面談も、仕事の都合などで学校には来ることができないが、10～15分程度であれば話せるという保護者もいると思うので、そういったことも積極的に取り入れてほしいと思います。

また、ペーパーレスにも取り組んでほしい。学校で作成されている、がんばりカードなどの配布物は、先生が集計・計算をして、パーセントで記載して、紙で配布されているが、タブレット端末には、数値を入れれば、自動的に集計される機能などもあるので、そういったものをどんどん活用してほしいと思います。ほかにも、PTAのアンケートなど、使えるものはたくさんあるのではないかと思いますので、便利なものは是非使ってほしいと思います。

また、そうやって作業が効率化したことにより得られた時間を、子どもとの対一の活動に使い、リアルな世界を充実させていくことが、1番大事なことでないかと思っています。

やはり、個々を知るところが教育にとってはとても大事なことになるので、子どもそのものを見るというのが教育のベースかと思っています。

この前たまたま「サティッシュの学校」という映画を見たが、その中で、1人1人を大切に、その人から生まれてくるものを大事にしようという話があり、とても感銘を受けました。人間は、そこにいること、それ自体が大事です。福岡県でも鍛ほめメソッドというものがありますが、何かができるから褒めるということがスタートではなく、まずはその存在自体が大事ということが重要ではないかと思っています。また、そういった考えが、SDGsや、全体を見るということに繋がってくるのではないかと思っています。

今、学力が低い子どもはいると思うが、学力が最重要なのではなく、その子がその子らしく幸せな人生を送るのが最終的な目標であって、そこを大事にしてもらえるようなICTの活用になるといいなと思います。

| | |
|----------------|---|
| | <p>また、日常的に活用することが、非常時や災害時にICTが活用できるということにも繋がってくると思います。</p> <p>そして、対話がとても大事だと思います。一対一の対話の中で、相手が話すことをじっくり聞くこと、聞いている間は次に何を話そうということなどを考えるのではなくて、相手と向き合い、話をしっかりと聞くという体験が大事だと思います。そういうことにより身に付けた力がいろいろなことのベースになっていくと思うので、ICTを活用することで、そういったことができる時間を作り、ゆとりを持った教育ができるようになればいいなと思います。</p> |
| 市 長 | <p>ご発言ありがとうございました。次に、今村委員発言をお願いします。</p> |
| 委 員 | <p>まず、ICT機器を利用する際に、アクセス権等については、制限などは設けられるのか、また、それぞれの教材がどこまで作りこまれるのかといったことが気になっています。</p> <p>タブレット端末を家に持って帰れるようになれば、勉強の機会の平準化という面ではとてもいいことであると思います。しかし、オンラインでは、様々な人とコミュニケーションが取れるので、家で使う際には、制限はつけられるものなのか、もしくは、完全に解放されるのかというところに少し懸念を感じています。また、あわせて、モラルの教育ということにも取り組むべきであると考えます。</p> <p>次に、ソフト面においては、どこまで作りこまれるのでしょうか。今の教科書と同程度の内容で作られるのか、もっと細かく、通常の教科書以上の内容で、側面のストーリーなどもあわせて学べるような内容なのかという、作り込みの部分がどの程度なのかで、使い勝手もかなりかなり変わってくるのではないかと 생각합니다。</p> |
| 市 長 | <p>ご発言ありがとうございました。ここで、ICT教育推進プロジェクト会議推進委員長、副委員長の方から、今の進捗状況や想いなどについてご発言をお願いします。</p> |
| ICT推進 委 員 長 | <p>色々と参考になるご意見頂きましてありがとうございました。</p> <p>まず、我々がICT教育を推進していく上で一番忘れてはいけないことは、ICTを活用することが目的ではないということです。我々教師がそのことをしっかりと受け止めて、そのうえで、ICTを活用しながら、どのように子どもを育てていくかということを考え、どういった場面でどのように使っていくかが大事です。</p> <p>また、個別化ということがいわれているが、個別化が最優先されていくのではなくて、まずは、自分で考え、意欲的に問題解決をしていくなかで、自分の考え方を創り上げていき、その次に、みんなで協働して、それぞれどう考えているのか、自分の考えはこれでいいのかななどをICT機器を使って伝え合うことが大事であると考えます。</p> <p>大川市ICT教育支援プロジェクト会議のなかでは、そういった視点を持ったうえで、どういったソフトでどういったことができるのか、どのように活用していくのかということを話し合いながら進めています。</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| <p>I C T推進 副委員長</p> | <p>具体的な活用について説明をします。</p> <p>学校における I C Tを活用した学習場面ということで、まず、動画の撮影などを通して学習を考えています。また、ソフト面では、授業支援アプリが入っているので、今までは発表者が模造紙やプリントなどを使って説明をしていましたが、タブレット端末から一斉に他の人のタブレットに送信をすることができるようになりました。さらに、タブレット端末上の映像を電子黒板に拡大して映すことも可能となりました。さらに、オンラインで全校集会を行うことが可能になり、密にならないようにして行うことができるようになりました。オンラインでの全校集会は、市内の学校ではすでに実施しているところもあります。</p> <p>それでは、今から実際にタブレットを使用しながら説明を行っていきたいと思います。</p> <p>— タブレット端末を使った実演 —</p> |
| <p>市 長</p> | <p>こういったように、学校現場では、先生が試行錯誤をしながら I C T教育の推進を行っています。我々が想像していた、習熟度に応じて問題が出てくるなどといったことだけではなくて、前転がなぜ自分がうまくできないのかということや、動画を撮って自分で確認することや、上手な人との違いを実際に映像で確認するという使い方もあり、本当に様々な使い方があると感じています。</p> <p>委員の皆様から、追加でご質問やご発言などはありますでしょうか。谷川委員どうぞ。</p> |
| <p>委 員</p> | <p>今、実際に自分で扱ってみて、難しいなと感じました。子どもはすぐに慣れていくかとは思いますが、やはり、こういった機器に頼りつつも、最後の最後では人間関係の構築が大事であると思います。</p> <p>先ほどの推進委員長の発言にもあったかと思いますが、こういう便利な物を使って、授業に対しての興味や関心が高まっていくという面もあると思います。例えば、それぞれの教科で動画を使って資料を提示することにより、今以上に学びを深めていくことが可能になります。また、学習状況に合わせて、より個別化した学習も可能になってくるだろうと思います。</p> <p>一方で、私が気にかかっていることは、学校は塾ではないということです。学校でこういった機器を使って学ぶということについて、塾との差別化をしっかりと考えておかないと、結果的に学力が上がったとしても、それは塾でもできます。学校で、子どもたちが先生から学んだり、子ども同士で遊んだり教え合ったり、先生とコミュニケーションを取ったりして、人間関係を構築していくということが大切ではないかと思えます。学力の向上も大事ですが、柔軟性やしなやかさを持った人間を育てることも学校が担っている役割ではないかと思えます。</p> <p>学校は、先生から子どもたちがいろんなことを学んで、最終的には世の中を生き抜いていくための人間力をしっかりと養っていく場であるという考えを根底に持ったうえで、こういう機器を使った個別最適化をした学びということを考えていかないのではいけないのではないかと思います。</p> |

| | |
|-----------|--|
| <p>市長</p> | <p>I C T教育を推進することについて、様々なご心配もあると思いますし、今は、全国で大人達が躓きながら取り組んでいる状況であると思います。しかし、私は、結構楽観的に考えていて、便利なものがあれば使えばいいのではないかと思います。昔は、プリント1枚作るにしても、先生方がものすごい労力を割いて作られていました。その背中を見ることも1つの教育であったと思いますが、一方で、その時間でやれたことは沢山あったのではないかと思います。先ほど委員が言われたように、リアルな時間をより充実させるために、機械ができることは機械にさせるということは、今に始まったことではなく、昔からそうやって、その時代に合った機器を使ってきました。そして、そうしたことにより空いた時間で、子どもたちの方に目を向けていただくことが大切ではないかと思えます。</p> <p>谷川委員のご指摘はまさにその通りで、学校は、塾ではないので、問題をたくさん解けたりする子を育てるのが目的ではない。一ノ瀬委員のご提言とは少しずれるのかと思いますが、勉強ができる子とできない子、お金持ちの家の子やそうではない子、走るのが速い子や遅い子など、様々な人間がいて、社会が成り立っている、そういったことを初めて体感するのが学校であると思うので、習熟度別で分けることも非常に大事で、飛び級というのも1つ面白いアイデアだとは思いますが、それぞれの学年で学んだことを使って、より深い問題を解くということは、かなり頭を使う。先に先にと進むのではなくて、その単元をより深く考えるということもよいことではないでしょうか。I C T機器は、子どもにそういったことを与えてくれる、1つのきっかけになるのではないかと思います。</p> <p>モラルの面については、制限をかけようと思えばかけられると思うので、我々運用側でしっかりやっていくことであると思います。それよりも、我々自身が情報リテラシーをきちんと持つが大事であると考えます。インターネットの世界に入ってしまうと、子ども達はとても広い世界に入ることができる一方で、フェイクニュースなどもたくさんある。そういった中で、どうやって確からしい情報を取っていくのかということも教えていかなければいけない。</p> <p>また、先ほど蔵本委員が言われたように、面談については、半日休みを取って行かなければいけなかったようなものが、30分～1時間休みを取って、先生と面談をできるというのは非常に良いことだと思うので、I C T機器を人間同士のコミュニケーションが深まるような使い方をすることはとても良い考えだと思います。</p> <p>こういったテクノロジーを排除して生きていくというのはできないので、テクノロジーを使って、より良い人間を作っていく、より良い人間関係を作っていくということが重要であると思っています。今から始まることなので、学校現場の意見や子ども達の反応などを見ながらしっかりとやっていきたいなと思っています。</p> |
| <p>委員</p> | <p>飛び級については、同じ学年で授業をするというのは、大事なことだと思います。そこをベースにして、週に1回や月に1回、学年を隔てずに授業を行うことで、学ぶ楽しみや意欲を高める場所の提供や、苦手を克服する機会作りということを目的としてやってみてはどうかと思っています。</p> |

| | |
|---|---|
| 市 長 | 確かに、部活動などは、上手な子が1年でもレギュラー取ったりするので、学習においてもそういったことも良いのではないかと思います。 |
| 3. 協議事項 (2) 学校校種間連携について ～郷土愛の育成と担い手づくりの観点から～ | |
| 市 長 | 次に、学校校種間連携について～郷土愛の育成と担い手づくりの観点から～を議題として協議をします。まず教育長より説明をお願いします。 |
| 教育長 | <p>学校校種間連携については、今から立ち上げようという動きがある状況ですので、委員の皆様からも、こういうことをやったほうが良いのではないかという意見やアイデアをいただければと思います。大川市校種間連携教育協議会を今年度中に立ち上げることを目指して動いていますが、この協議会は、本日オブザーバーとして出席していただいている大川樟風高等学校の槻木校長先生から発案していただき、私も賛同をして、一緒に進めようとしているところです。</p> <p>大川市内には、小学校・中学校・高校・大学があるので、別々に教育するのではなく、連携すれば、多様な人と付き合う機会が増え、協働的な学びもできるであろうと考えます。そういった活動を通して、子どもたちが逞しく、しなやかに育ち、大川を愛する地域の担い手になってもらいたいという思いがあり、この協議会を立ち上げたいと考えております。</p> <p>また、本市は、過去何年間かけて保幼小中連携に力を入れてやってきたので、その成果もあります。これから先、そういった成果を踏まえて、高校・大学と連携をし、地域の担い手となる子どもたちを作っていきたいという願いがあります。また、地域づくりということも含めて、地域のお祭りや伝統行事、ボランティア活動などにも子ども達がどんどん出ていくことも目標としていきたいと思っております。</p> <p>各委員の皆様方からもっとこういったことが出来そうだというご意見もいただけたらと思っております。</p> |
| 市 長 | 教育長、説明ありがとうございました。それでは、今村委員からご発言をお願いします。 |
| 委 員 | <p>私は、木工まつりをもっと活用できないかと思います。大学のお祭りも一緒にの時期に行っているのですが、そういったことをうまく利用できないでしょうか。</p> <p>具体的には、ある学年を指定して、その学年の時に木工まつりに大きく携わるようにしてはどうかと思います。携わり方はいろいろあるかと思いますが、よいやり方で上手く関わっていくようにできないかと思います。</p> <p>また、藩境祭りでは、大川小学校が出校日として全員参加をしているということなので、木工まつりも出校日として全員参加というやり方も含めた形で検討をしていければ良いのではないのでしょうか。</p> <p>本市には、木工まつりに加えて、古賀政男記念祭などもあるので、そういった時に、小・中学校の子どもが高校生や大学生と一緒にステージで歌や演奏など披露するという形でイベントを行うことで、交流ができないかと思います。</p> |
| 市 長 | ご発言ありがとうございました。次に、蔵本委員発言をお願いします。 |

| | |
|-----------|--|
| <p>委員</p> | <p>まず大川市校種間連携教育協議会に保幼も入れてみてはどうかと思います。今までは保幼も一緒に行ってきたので、その流れでやってみてはどうでしょうか。</p> <p>また、大川桐英中学校と大川小学校は同じ敷地内にあるので、交流しやすいのではないかなと思います。去年、八女の義務教育学校に伺った時に、中学生が小学生に算数を教えていて、身近なお兄さんやお姉さんに教えてもらうような交流の場があったので、そういうこともできるのではないかなと思います。</p> <p>また、現在、放課後算数教室が開催されていますが、丸付けをしてあげるくらいのことであれば、タブレットで対応できることではないかと思うので、ただ丸をつけるということなどを目的にするのではなくて、交流をするのであれば、もっと違う交流の仕方もあるのかなと思います。</p> <p>また、校区民大会は、最近なかなか参加率が悪いということですが、防災を絡めて行ってはどうか。地域の子どもからお年寄りまで幅広い年齢が一緒になって、自分たちの身近で、役に立つということを目的として、校区民大会を使ってみることによって、みんなが参加しやすい状況を作る。そういったことを市を挙げてやっていくことで、大川市の災害への対策について、市民が知る機会にもなるのではないかなと思います。また、そのなかで、ICT機器について情報提供したり、実際に使ってみたりして、地域力を上げる場にできないかなと思います。</p> <p>次に、若い人に残ってもらうためには、その世代が住みやすいと思う街にしていかないといけないのではないかなと思います。現状として、市の施設には、Wi-Fiが整備されていない。公共的な場所で勉強するところがないので、Wi-Fiを繋げて勉強ができるような場所がもっと増えたらいいなと思います。例えば、市役所などの広いロビーに、大川家具の座りやすい椅子と勉強しやすい机を置いて、その場所を自由に使っていいスペースにしてみてもどうでしょうか。また、その場所をYouTubeで配信したら、変なことにも使われない。その場所に行ったら勉強が出来る、その場所に行ったら遊べる、といった、若い子たちが楽しみに思えるような環境を作ってもらえたらと思います。また、今は関東などでテレワークしている人たちもたくさんいて、こっちに帰ってきても仕事ができるという人はたくさんいると思いますが、Wi-Fiが繋がらないなどの理由で帰ってこないということもあると思うので、そういったインフラ整備を市長にお願いしたいと思います。</p> |
| <p>市長</p> | <p>ご発言ありがとうございます。次に、一ノ瀬委員ご発言をお願いします。</p> |
| <p>委員</p> | <p>私も、保幼、それから、今度オープンする子育て総合支援施設もこの連携の中に入れてはどうかと思います。命の教育といった場面では、赤ちゃんとのふれあいが効果を上げているということもあるので、保幼に加えて、支援施設も教育施設の1つということで、連携してもらえたらと思います。本市では、支援施設は市長部局であることも未来課の所管ですが、他の自治体では、教育委員会で所管しているところもあるので、支援センターも含めた連携をしていけないだろうかと思っています。とても幅が広がるので、ぼやけてしまうかもしれませんが、交流をするということ自体は可能ではないかなと思います。</p> <p>赤ちゃんが月に1回中学校に訪問しているところに実際に見に行ってみて、</p> |

赤ちゃん自身も中学生・先生・お母さん・支援者など色々な人と触れ合うことで、心が育まれていく様子が見えたので、こういった取組は大川市でも取り入れられたらいいなと思います。

次に、伝統行事やお祭りへの関わりという面では、昔は風浪宮のお祭りの日は、学校が休みという時期もありました。休みにすると、参加しない子が出てくると思うので、そういった日は出校日にするなどして、芸能や音楽での参加ができればと思います。

また、大野島小学校の金融教育を見てみて、子どもたちが実際にお店を出してみるような関わり方での行事への参加はとても良いと感じました。全ての子どもが一斉出店するというのは、人数的に多すぎるかとも思うので、何日かに分け、出店者側で参加する日、お客さん側で参加する日、という参加の仕方にする、お祭り自体にも賑わいが出てくるのではないかと思います。

次に、ボランティア活動について、朝食を食べてこない子に地域の方々から朝食の提供というのはできないかと考えています。そうしたことにより、地域の方とのつながりも生まれてくるのではないのでしょうか。

市長

ご発言ありがとうございます。次に、谷川委員ご発言をお願いします。

委員

まず、校種間連携の観点からということで、おおかわ寺子屋は、中学校の授業終わりの時間に設定してあり、高校生や大学生が時間的に参加をしづらい状況にあります。また、おおかわ寺子屋は、中学3年生を中心に受験対策という形で実施をされているので、高校生が勉強を教えに行くとなると、学習内容が近すぎるので、高校生は尻込みをしまっているのではないかと思います。そういったことから、私は、小学校と高校の交流、中学校と大学の交流を積極的に行ってみてはどうかと思っています。

次に、郷土愛の育成と担い手作りの観点からというところですが、私も、地域の行事や伝統行事というのをとても大事だと感じています。私は大川出身ではないので、昔の大川をよく知らないですが、たまたま移ってきた地域が、伝統的な建物がたくさんある場所でした。また、昔からあるお祭りが今も続いている地域で、その中で色々な人との関わりを持たせていただいているので、市外からきた割には、地域に馴染んでいるかなと思います。

私が住んでいる町内には、小さいが歴史がある八幡宮があります。そこでは、毎年10月12日にお祭りが開催されていて、町内の小学生は、そのお祭りに平日であっても、許可をいただき、学校を休んで参加をしています。また、お祭り自体は午前中に行いますが、学校があっている時間は、子どもたちは家に帰らせずに、八幡宮の境内や公民館でいろいろな体験をして過ごさせるようにしています。そういったことを始めた経緯としては、私の5、6歳上の町内の方が、自分たちの小さい頃は、そういうお祭りに参加をして、親世代が子どもたちをものすごく楽しませてくれていたので、そういった楽しかった体験を自分たちの子ども世代にも体験をして欲しいという思いがあり、活動するようになったということでした。

郷土愛の育成や担い手作りということを考えたときに、以前は大事にされていた伝統行事が、参加する人や運営する人が不足して、中止になっているところも多くあるのではないかと思います。そういったことを復活させていって

| | |
|------------------------|---|
| <p>市 長</p> <p>榎木校長</p> | <p>はどうかと思います。小学生・中学生には、そうした元々地域にあったことについての歴史を勉強してもらう。建物であったり、行事そのものであったり、そうした行事のときに食べていた食べ物であったり、そういったものを勉強・研究してもらって、それから、地域の方や大学生、高校生の力を借りて行事を実際に行ってみるようになっていくというようなことも、とてもいい取組になるのではないかと思いますので、提案いたします。</p> <p>ご発言ありがとうございます。本日は、オブザーバーとして大川樟風高等学校の榎木校長先生にもご出席いただいておりますので、榎木校長先生からもご発言をお願いします。</p> <p>委員の皆様からの貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>まず、大川市の人口は、これから先、どんどん減っていくという予測が出ています。今、本市の総人口は3万3千人程ですが、5年後には、3万人を割り、更に、25年後には、2万人割るのではないかとという予測で出ています。</p> <p>また、その中でも、0歳から14歳は、25年後には現在の約半数になると予測されており、2045年には大川市の約半数が65歳以上になるということも予測されています。</p> <p>そういった中で、私自身、大川市に若い人が来るような取組を何かできないかと思い、大川市でどこにもない教育を行い、そういった面を内外に発信できたらよいのではないかと思い、この協議会の立ち上げに至りました。</p> <p>連携について、私は、一歩進んだやり方をしたいと思っていて、授業の中でも連携をしたいと考えています。例えば、大川樟風高校の先生が市内の中学校に勉強を教えに行くというようなことができないかと考えています。</p> |
| <p>4. まとめ</p> | |
| <p>市 長</p> | <p>ご発言ありがとうございます。</p> <p>まず、支援センター・保育園・幼稚園を連携の中に入れるべきだというご意見については、その通りだと思います。一方で、この協議会に関しては、榎木校長先生たちにより、現在立ち上げ途中という段階ですので、まずは、そちらの方で立ち上げを行っていただき、大川市には、高校と大学があり、その二つがない自治体もあるので、そこを中心にしていけたらと思います。また、行政側では、市長部局にあるこども未来課と教育委員会が協力してやっていければと思います。</p> <p>また、伝統行事についての話も出ていましたが、本当にその通りだと思います。私が小さい時には行われていた伝統行事も、月日が経ち、なくなっているものも多いのではないかと思います。</p> <p>藩境祭りは、最近始まったものではありませんが、毎年活気を持って取り組んでいる姿を見ると、私自身とても楽しく思いますし、そういったことがエネルギーになるのではないかと思います。</p> <p>校区民大会については、行政側から意見をするようなことはできませんが、各校区で様々な年代の人が参加出来るように、幅広い運営の仕方を考えていけたらよいのではないかと思います。</p> <p>次に、木工まつりや金融教育の話が出ましたが、この前県外の大学に進学し</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>教育長</p> | <p>た大川市出身の子が私のところに来て、木工祭のときなどに、中学生と一緒に何か企画をして、参加をするようなことをやりたいと言っていました。大人がやるよりも大学生と一緒に携わっていく方がいいのではないかという話をしてくれて、とても嬉しく思いました。</p> <p>金融教育については、学校ではお金にまつわることについてはあまり伝えられていないと思いますが、実際にお金を稼ぐということは、とても大事なことです。それを体感するという意味でも、出店者側としてお祭りなどに参加をしていくことや、金融教育はとても大事なのではないかと思います。税金や金融、お金などについては教科書がほとんどない。そういったことに加えて、株式の仕組みや利息などについても、小学生の頃から色々な人たちから教えていければと思います。</p> <p>Wi-Fiについては、単純に費用面の問題なので、少しずつでも整備をしていけたらと思います。</p> <p>コロナ禍という先の見えない時代のなかで生きていくために、必要な力を身につけていくということが非常に大事になってくるのではないかと思います。ICTは、非常に便利で、これからの時代において、なくてはならないものだと思いますが、一方で、美術や音楽といったアートの部分が、人間を作っていくと思います。そういったことについて、小学校・中学校では、あまり学ぶ機会がないと思いますが、大学では、非常に面白い授業をされていると思いますので、大学とも連携出来ると楽しいのではないかなと思います。</p> <p>我々自身も、環境が劇的に変わっているので、子どもたちに遅れないようにやっていかなければいけないなと思っております。</p> <p>ご意見ありがとうございました。私が今考えているのは、今年度から、教育振興プログラムの実施期間であります。プログラムの目指す人間像がまさしく「ふるさとを愛し、人との繋がりを大切にする、創造性豊かな人」ということです。</p> <p>ICTにしても、個別最適化にしても、郷土愛にしても、一番大切にしていかなければいけないのは、人づくりです。そういった面について、委員の皆様からも発言がありましたように、学校で学ぶことと、塾との差別化というところで、学力だけではなく、世の中を生きていくための人間を作っていくというところや、伝統行事や祭りといった話の中でも、企画する力や実践する力といったところにとっても共感しました。</p> <p>また、AIやICTに対応していくということと、それと並行して、リアルで体験するということのバランスについても考えていかななくてはいけないと思っています。</p> <p>教育の目的は、人格の完成であり、人としてどう生きていくのかということで、「人としての原点」を教育委員会では担っていると思っています。そういった面においても、本日の会議は、とても有意義であったと感じます。委員の皆様からのご意見を参考にして、魅力ある政策、魅力ある人づくりを行っていきたいと思います。ありがとうございました。</p> |
|------------|---|